

⑩ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

㊦ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

⑤スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●人口減少の緩和に向けては、市民の希望出生率1.65に対し、合計特殊出生率が1.12と下回っていることから、社会全体で子どもと子育て家庭を支えていること⑩や、性別を問わず働きながら子育てができる環境が整っていること⑩が重要。

●また、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を防いでいること⑩や、若者の社会的自立を支えていること㊦が重要。

●さらに子どもは一人一人の状況に応じた最適な教育環境の中で⑤、心身ともに健やかに㊦、互いを尊重し合いながら⑩、学んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
W×O		・1人当たりの市民所得の低さ ・合計特殊出生率の低さ（20市中20位） ・男性、女性ともに長時間労働の傾向 ・子育てへの負担感を抱える市民の増加 ・町内会加入率の低下（地域意識や人間関係の希薄化）	・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト	
W×T		・1人当たりの市民所得の低さ ・子育てへの負担感を抱える市民の増加 ・生産年齢人口の減少、少子高齢の人口構造		・全国的な少子・高齢化の進行 ・子どもの貧困や虐待の増加・教育格差
S×O	・都市機能の集積		・価値観やライフスタイルの多様化 ・デジタル技術の急激な進歩（AI、IoT） ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	

■基本目標1 安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち

※子どもと子育てを社会全体で支えていく観点を強化。
対応する現目標9 安心して子どもを生み育てられるまち

■基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

※虐待の防止、医療的ケアなど、誰一人取り残さない観点及び若者が希望を持ち、理想のライフプランが実現できる観点を強化。
対応する現目標10（将来を担う子どもの成長と自立を支えるまち）と11（若者が社会的に自立し活躍できるまち）を一本化

■基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち

※教育に関する目標を新設。一人一人の特性や興味・関心等に応じた最適な学びや、他の子どもなどとの協働した学びに関する観点を強化。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 基本目標1について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い（吉岡委員）
⇒目指す姿1で子育てする人の交流の観点を記載し、子育てする人自身の主体性を表現
- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた、また、基本目標3については「教育」という文言を入れて欲しい（吉岡委員）
⇒基本目標2の「健やか」を削除するとともに、基本目標3において目指すべき「教育」の姿を明記

基本目標１ 安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち

■目指す姿 案

- 1 社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。
また、子育てする人同士の交流も進んでいます。

※「地域等での子育て支援」、「妊娠期からの切れ目のない支援」、「経済的負担の緩和」の観点を記載。

- 2 多様なニーズに応じた保育サービスや、児童が放課後に過ごす安全で心地よい居場所が整っています。

※「多様な保育ニーズへの対応」や「保育人材の確保」、「放課後の児童の居場所確保」の観点を記載。

- 3 ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。

※「働きながら子育てがしやすい環境整備」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- 子どもと子育てを支える意識の向上【新規】 - 子育て世代の交流や助け合いなどの子育て支援活動の参加や推進 ※子育て世代の交流の観点【レベ】 etc	- 子育て世代の交流や地域等での子育て支援の促進 - 妊娠期からの切れ目のない支援 - 子育ての悩みや経済的負担の緩和 etc
2	- 安全・安心な保育の実践 - 放課後の児童の居場所づくり【新規】 etc	- 運営体制の向上及び人材確保への支援【新規】 - 様々な保育サービスの整備 - 放課後の児童の居場所の整備や環境改善 ※環境改善の観点【レベ】 etc
3	- ワーク・ライフバランスや働き方の転換への理解と実践 - 男性の家事育児への理解と実践 etc	- 子育て中の女性などに対する「新たな日常（働き方）」を推進する取組や再就職支援【新規】 - ワーク・ライフ・バランスの推進 - 男性の家事育児への理解と実践に対する支援【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 全国的な子育てに関する問題意識の高まりなどにより「子どもを生み育てやすい環境だと思ふ人の割合」は低下している状況にあり、行政による支援はもとより、家族の枠を超え、社会全体で子どもと子育てする人を支えていることが重要。
- 国定義の保育所等待機児童数0を達成するとともに、「希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合」も増加しているが、保育士など子育てを支援する人材の確保や放課後に児童が利用する児童会館等の環境改善が課題となる中、多様なニーズに応じた保育サービスを利用できる環境や児童が放課後に過ごす安全な場所が整っていることが重要。
- 「仕事と生活の調和がとれていると思ふ人の割合」は低下し、子育てについて感じる悩みは「自分の自由な時間が持てないこと」、「仕事と子育ての両立が大変なこと」といった「親自身の悩み」が増加する中、男性の家事・育児への関わりを促し、男女ともに子育てと仕事を両立できる働き方への転換に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 基本目標1について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い（吉岡委員）
- 子ども・若者の基本目標1～3を達成するためには親が経済的に豊かである必要があることから、経済の基本目標10～12を実現させることが肝要であり、車の両輪（山本一委員）

基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

■目指す姿 案

- 1 子どもの権利の保障が進み、子ども一人一人が自分らしく伸び伸びと過ごしています。また、虐待やいじめなど、権利が侵害される事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応しています。
※「子どもの権利の推進」、「児童虐待防止」の観点を記載。
- 2 支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切なサポートを受け、安心して過ごしています。
※「困難を抱える子ども（障がい児、医療的ケア児など）への支援」、「ひとり親家庭への支援」や「子どもの貧困対策」の観点を記載。
- 3 若者は、安心して過ごせる居場所をよりどころに社会的に自立し、将来への希望を持ちながら輝いています。
※「若者の社会的自立」や「理想のライフプランの実現（就職、結婚等）」、「大学等の教育等」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- 子どもの権利の理解や関心の向上 - 児童虐待防止等の重要性についての理解【新規】 - 権利侵害の未然防止や早期把握への協力 etc	- 子どもの権利の理解促進 - 子どもや保護者に対する適切なサポートや関係各所との連携などによる虐待やいじめ等の未然防止や早期把握【新規】 - 児童虐待等に対する支援体制の充実など、権利侵害への迅速かつ適切な対応 etc
2	- 困難の早期把握への協力 - 障がい児や医療的ケア児、ヤングケアラー、外国にルーツを持つ子ども等への理解【新規】 - サポートの意識向上や実践【新規】 - 子どもの多様な居場所づくり【新規】 etc	- 多様な主体と連携した困難の早期把握【新規】 - 支援や配慮が必要となる子どもや家庭へのきめ細かで継続的な支援 - 子どもの多様な居場所づくりへの支援【新規】 etc
3	- 成長を支える意識の向上と実践 - 若者の居場所づくり - 大学等との連携 - 大学等における質の高い教育の提供【新規】 etc	- 成長と自立への支援 - 若者の居場所づくり - 理想のライフプラン実現に向けた支援【新規】 - 大学、地域、企業等との連携促進 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 札幌市は、平成20年（2008年）に「子どもの最善の利益を実現するための権利条例」を制定しており、引き続き、子どもの権利の保障を進めていくことが重要。また、いじめ・虐待等の事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応していくことが重要。
- ひとり親家庭や障がいのある子ども、医療的ケア児、ヤングケアラーなど、困難を抱える子ども・家庭を早期に把握し、誰一人取り残さず、適切なサポートにより安心して過ごすことができることが重要。
- 家庭の中での様々な問題や不登校、ひきこもりなど、社会的自立に困難を抱える若者は相当数存在しているため、家庭や学校、職場以外の若者支援施設、地域活動、インターネット環境などの第3の居場所（サードプレイス）もよりどころにして、困難を取り除き、社会的に自立していくことが重要。また、若者が考える理想のライフプランを実現し、将来への希望を持つことができる環境をつくることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）

基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にすることを通して、子どもが健やかに育つまち

■目指す姿 案

- 1 多様性が尊重された環境のもとで、子どもは、自分の特性や興味・関心に応じた学びと他の子どもとの協働的な学びなどを通して、自立に向けて成長しています。

※「個別最適な学び（GIGAスクール構想、少人数学級など）」
「協働的な学び（子どもの個性尊重）」の観点を記載。

- 2 子どもは、生涯にわたって心身の健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。

※「健やかな心身の育成」の観点を記載

- 3 地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、家庭、地域、企業等が連携して子どもの成長を支えています。

※「多様な学びの機会の創出」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	・多様性への理解【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の活用などに対する理解と実践【新規】 ・効果的な教育用ICT機器や学習コンテンツの開発と提供【新規】 ・不登校の子どもに対する支援 etc	・子どもの多様性を尊重し、可能性を最大限引き出す学びの提供 ・異学年（校種）間の学びの提供【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の整備及び効果的な活用【新規】 ・きめ細かな指導体制の整備【新規】 ・不登校の子どもに対する多様な学びの機会の確保 ・札幌の特色を生かした学びの提供 etc
2	・運動に親しむことのできる機会や環境の提供【新規】 ・適切な生活習慣の実践【新規】 ・専門性を生かした講義等の実施 etc	・体力・運動能力向上の推進【新規】 ・健康的な運動・生活習慣作りの推進 ・豊かな心を育む取組の推進 etc
3	・学校外での実体験を伴う実習活動や講師を派遣しての講義などの多様な学びの機会の提供 ・家庭教育に対する理解と推進【新規】 etc	・家庭、地域、企業等との連携促進 ・家庭教育への支援【新規】 ・多様な主体と連携したICT等を活用した学びの提供【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 多様な状況にある子どもたち一人一人の良さや可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現することが必要。
- 国のGIGAスクール構想に基づく学校教育におけるICT活用の一層の推進や、災害・感染症等の緊急時であっても子どもたちの学びを保障していくことなどが求められている中、急速に変化する時代の変化を捉えた学びの環境が整ったまちを目指すことが必要。
- 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、札幌市の子どもの体力得点は政令市で下位となっており、子どもの生活習慣・食習慣・運動習慣の改善を通して、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るための資質・能力を育成することが必要。
- 「子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合」は横ばいである中、地域や家庭、企業など、多様な主体と連携して子どもの成長を支える体制を整備していく必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っているが、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）
- 基本目標3については、「教育」という文言を入れて欲しい（吉岡委員）

⑩ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

㊦ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

⑨スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●高齢化は引き続き進行し、2040年代には高齢者人口が全体の4割になる見込みであるが、人生100年時代の到来とも言われていることから、市民や企業が健康への意識を高く持っていること㊦や、生涯学習・学び直しの機会が充実していること㊦が重要。

●また、高齢者・障がいのある人は必要な支援を受けられる⑩とともに、建築物のバリアフリー⑩や、行政手続などにおけるICT活用⑨が進んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・住みよさ ・都市機能の集積		・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト ・デジタル技術の急激な進歩（AI、IoT） ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	
S×O	・市民愛着度の高い市民の多さ		・価値観やライフスタイルの多様化	

■基本目標4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

※現戦略ビジョンの安全・安心分野から、健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項として独立。生涯活躍の観点を強化。

※誰もが元気に過ごし、生涯学習や学び直しの機会の充実により、まちづくり活動や仕事など生涯にわたって活躍できる観点を強化
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち

■基本目標5 生活しやすく住みよいまち

※医療・介護体制の整備、高齢者・障がいのある人等の支援を要する方やその家族への支援、行政サービスの利便性向上等の観点を強化。
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち、14安全な日常生活が送れるまち から生活・暮らしに関する部分を独立

■第2回審議会でもいただいたご意見

○生活・暮らしの基本目標を掲げていただいたことは非常に良い（浅香委員）

基本目標 4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

■目指す姿 (案)

- あらゆる世代の市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくりや介護予防の取組等に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしています。

※「健康への意識向上」や「働く世代の健康増進」、「健康づくり、介護予防等」の観点を記載。
 ※「子どもの体力向上」は子ども・若者で整理。
 ※「ウォーカブルシティの推進」、「スポーツによる健康増進」は、それぞれ、都市空間、スポーツ・文化で整理。

- 誰もが生涯にわたって学び、また、学び直しをすることができ、その成果が、日々の生活はもとより、まちづくり活動や仕事、ボランティア活動などに生かされています。

※「学びの機会の充実（身近な地域での学び、就業・社会参加への学び直し等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- 健康への意識向上【新規】 - 健康づくりや介護予防等の活動推進や積極的な参加・支援 - 従業員の健康保持・増進に向けた取組の実施【新規】 etc	- 市民や企業の健康への理解促進【新規】 - 健康づくりや介護予防等の取組充実や活動促進 - 企業等との連携による働く世代の健康増進 ※健康課題のある世代への支援の観点【レベ】 etc
2	- 生涯学習への関心向上と積極的な参加 ※積極的に参加する観点【レベ】 - 多様な主体による学びの機会の提供 - 学び直しの成果を活かす場への参加や提供 - 高齢者が活躍できる環境整備 etc	- 多様な学びやスキルアップ等のための学び直しの機会の充実 ※学び直しの機会の観点【レベ】 - 身近な地域で学びを深められる環境や体制の整備 ※生涯学習環境の更なる充実の観点【レベ】 - 多様な主体との連携促進 - 学び直しの成果を活かす場の提供や支援 - 高齢者への就労支援 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 〇札幌市民の健康寿命は男女ともに全国平均を下回っており、20～50歳代の働く世代では、他年代に比べ、肥満、運動習慣、ストレス、飲酒などの分野で指標の達成が遅れていることから、市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくり等の取組に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしていることが重要。
- 〇生涯学習をしている人の割合は58.6%（H27）となっており、高齢者人口の増加や多様な働き方等の社会の変化を捉え、多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を生かして主体的に社会に参画・活躍できる人を育む必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 〇健康については、医療や介護の提供だけでなく、予防という観点も入れるべき（大西委員）。
- 〇健康については、個人の意識も重要であるが、空中歩廊のような、車に頼らない社会を作り、ナッジによる自然に健康に導かれる、ウォーカブルな都市空間を作り上げていくことも重要（大西委員）。
- 〇健康寿命は重要なキーワード。日常生活、運動などによる健康寿命の延伸について記載して欲しい、また、幼少期の発育が将来的な健康につながるの、子どもたちが健やかに育つ場所、指導できる人材が必要（川島委員）。
- 〇子どものころからの健康づくりやまちづくり、高齢になっても学び直しができることが重要（尚和委員）。

基本目標5 生活しやすく住みよいまち

■目指す姿 (案)

- 多様なニーズに応じた住まいが確保されているとともに、在宅医療、身近なかかりつけ医の普及など医療体制が整い、支援を要する方及びその家族は、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けています。

※「居住支援」や「配慮を要する方への福祉支援」、
「医療体制の整備（地域医療、在宅医療、救急医療など）」、
「地域包括ケア」の観点を記載。

- 建物や道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。

※主にハード面の「バリアフリー化の推進」の観点を記載。
※ソフト面の心のバリアフリーは「地域分野」に記載。

- 行政のデジタル化が進み、誰もが申請や相談等の行政手続きをオンラインで完結することができるなど、行政サービスの利便性が向上しています。

※「行政手続きのオンライン化」や「窓口の利便性向上」、
「デジタル格差是正」の観点を記載。

- 市民・企業・行政の連携やICTの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。

※「生活交通」、「冬期の道路環境（除排雪）」の維持・確保の観点を記載。
※「交通ネットワーク全体」の観点は都市空間分野に記載。

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- 多様なニーズに応じた住まいの供給【新規】 - 安定した医療・介護・障がいサービスの提供 - 身近なかかりつけ医の受診 - 高齢者や障がいのある方、認知症への理解 ※認知症への理解の観点【レベル】 - 支援を要する方の把握への協力 - 障がいのある方の雇用推進 etc	- 住まいの確保に課題を抱える方への居住支援 ※居住支援の観点【レベル】 - 地域包括ケアの推進【新規】 - 医療や介護などの支援を要する方の適切な把握 - 介護人材の確保・定着に向けた支援【新規】 - 重度障がいのある方等に対する就労支援【新規】 etc
2	- バリアフリー化やユニバーサルデザインへの理解と導入 - バリアフリー情報の発信 etc	- 公共施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入推進 - 民間施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入促進【新規】 - バリアフリー情報の発信 etc
3	- マイナンバーカードの積極的な活用【新規】 - 積極的なオンライン申請の活用【新規】 - デジタルリテラシー※の向上【新規】 etc	- マイナンバーカードの利活用促進【新規】 - 行政手続きのオンライン化【新規】 - デジタル格差の是正【新規】 - ワンストップ化やワンスオンリー※など窓口における利便性の向上【新規】 - 適切なデータ利活用【新規】 - プッシュ型サービス※の実現【新規】 etc
4	- 地域住民、交通事業者、行政の協働による公共交通の維持【新規】 - 公共交通の利用促進 - データの利活用・先端技術の活用【新規】 - 雪対策に関する理解・協力 - 雪対策における行政等との協働 etc	- 地域特性に応じた交通環境の維持・確保に向けた取組の推進 - データの利活用・先端技術の活用【新規】 - 冬期の道路環境の維持・確保に向けた取組の推進 - 雪対策における市民等との協働の推進 etc

デジタルリテラシー：デジタル機器の操作などに関する能力や、情報を取り扱う上での理解、さらには情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用するための能力
ワンスオンリー：一度提出した情報は再提出不要であること
プッシュ型サービス：一人ひとりに合った行政機関などからのお知らせを表示する機能

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 住宅確保要配慮者のうち、低額所得者や高齢者、障がいのある方は増加傾向であり、多様なニーズに応じた居住支援が必要。また、高齢者人口や要介護者の増加が予想されるとともに在宅医療の需要増加やダブルケア、8050問題など支援ニーズが複合・複雑化する中、ニーズに対応する支援体制が構築され、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けていることが重要。
- 市有建築物はもとより、民間建築物の更なるバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が必要。
- 新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で、行政手続きのデジタル化の遅れなどが顕在化しており、誰もが安心して利便性を実感でき、市民生活の質の向上につながる「市民目線によるデジタル改革」が重要。
- 人口減少や少子高齢化により公共交通の利用者の減少が予想される中、市民の多様な暮らしを支える交通環境の維持・確保が重要。さらに、除雪従事者の不足・高齢化、労務単価や機械損料の高騰等により除雪予算が急激に増加している中、冬期の道路環境の維持・確保が重要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 現在の戦略編には、自ら支援にたどり着けない市民を適切に把握するという表現があり、次期ビジョンでも位置付けていくべき（浅香委員）。
- 新しくできたお店でも、段差があり残念に思うこともある。今後は、高齢者やハンディーのある人、ベビーカーの親子連れなどにも優しい施設がより一層求められる（牧野委員）。

①ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

②ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

③スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●まちが成熟期を迎え、個々の価値観が多様化する中、地域コミュニティなどにおいては、年齢や性別、障がいの有無、文化、民族、国籍に対する心のバリアフリー①や、これらの違いを超えた交流①が進んでいることが重要。

●また、一人一人が地域コミュニティを育み、大切にすることを①、ライフスタイルに合わせてまちづくり活動に参加できるとともに②、担い手の育成が進んでいること③が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・市民愛着度の高い市民の多さ		・価値観やライフスタイルの多様化	
W×O		・町内会加入率の低下（地域意識や人間関係の希薄化）	・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト	

■基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

※年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・文化の違いを超えて互いに認め、支え合う、心のバリアフリーを推進する観点を強化
対応する現目標1 共生と交流により人と人がつながるまち

■基本目標7 誰もがまちづくり活動に関心を持ち、参加できるまち

⇒（修正案）誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち

※地域コミュニティを育み、大切にし、ライフスタイルに合わせながら、誰もがまちづくり活動に参加できる観点を強化
現目標2、3を一本化

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 「まちづくりに参加」という言葉は後ろ向きに感じるので「参加」より主体的な表現が良い、「地域コミュニティを育むまち」というような市民が主体的な表現が必要（吉岡委員）
⇒基本目標7を「誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち」と変更するとともに、目指す姿に「誰もが地域コミュニティを育み、大切にすること」旨を明記し、市民の主体性を強調
- 札幌は様々な人がいるので多様な考え方がある中、基本目標の中で、誰もが、互いにという言葉強く押し出しているのは良いと思う（佐藤理委員）

基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

■目指す姿 **案**

- 1 年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・**宗教**・文化など、様々な個性・特性を互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。

※「多様性への理解促進」や「人権尊重」、「平和事業の推進」の観点を記載。

※「子どもの権利」については、子ども・若者で記載。

- 2 世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。

※「多様な交流の推進（多世代交流や高齢者の交流、国際交流）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- 様々な個性・特性への理解 - 様々な個性・特性を互いに認め合い、支え合う取組の実践【新規】 - 平和の尊さの理解 etc	- 様々な個性・特性への理解促進 - 戦争や被爆体験等の次世代継承などを通じた平和の尊さの理解促進 etc
2	- 交流活動等への積極的な参加 - 交流の場の提供や活動の推進 etc	- 多世代交流や高齢者の交流促進 ※高齢者の交流促進の観点【レベ】 - 外国人市民との交流促進 - 国際交流の推進 - 交流活動等への支援 - ICT等を活用した交流促進 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 今後は、一人一人の個性や違いを理解するだけでなく、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うという視点がこれまで以上に重要となる中、年齢や性別、障がいの有無、国籍、民族、文化などにかかわらず、多様性を尊重できる社会になっていることが重要。
- 戦争・被爆の経験者が高齢化・減少し、戦争・被爆の記憶が薄れていく中、その経験を次世代に継承し、平和の尊さに対する関心や意識の向上に取り組むことが必要。
- 単身高齢者世帯の増加が予想されており、「社会的つながり」の薄さが、生きがい喪失や自立低下などをもたらすことが懸念される中、多世代の交流や高齢者同士の交流などにより、市民同士のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる地域が形成されていることが重要。
- 留学生や技能実習生など外国人市民数が増加するなど、地域の構成員が多様化してきている中、外国人市民との交流促進が重要。また、姉妹・友好都市を始め海外諸都市等との都市間交流により相互理解を深め、国家間の政治情勢等に左右されない信頼関係を築き、世界平和と世界との親善に貢献していく必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 共生社会の実現に向けては、多様な人がいて当たり前の環境に慣れること、そのためにも、建物のバリアをなくすこと、心のバリアフリーの推進、お互いを認め合い知ることが、大前提だと思う（牧野委員）。

基本目標7 誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち

■目指す姿 案

- 1 誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支え合いながら地域の課題を解決しています。また、区役所やまちづくりセンターが拠点となり、様々な活動が推進されています。

※「市民まちづくり活動や地域福祉活動への参加」や「担い手の育成・確保」、「地域マネジメントの推進（区役所やまちづくりセンターの機能等）」などの観点を記載。

- 2 誰もが市政を身近なものとして市政に関心を持ちに感じ、積極的に参加しています。

※「市政情報の発信」や「市政への参加促進」の観点を記載。

- 3 誰もが地域コミュニティを育み、大切にし、良好な生活環境の維持につながる地域コミュニティの中核として、地縁による団体（町内会・自治会）が地域コミュニティの中核として生き生きと活動しています。

※地縁による団体への「理解や関心向上」や「人的・経費的負担の軽減」、「活動促進」の観点を記載。

- 4 地縁による団体（町内会・自治会）、福祉のまち推進センター、NPO、商店街、企業など多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。

※「多様な主体によるまちづくり活動促進（NPO、商店街、企業の地域貢献等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	- まちづくり活動への理解や関心の向上 - まちづくり活動への積極的な参加や実践 - 地域の特性や課題を自ら把握し、考える意識の向上【新規】 - 地域課題の解決に向けた取組の推進 - ボランティア活動への参加や体験機会の提供 etc	- まちづくり活動の担い手の育成・確保への支援 - まちづくり活動や活動への参加の促進 - 寄付文化の醸成 - 地域課題の掘り起こしや地域のまちづくりに関する情報発信 - ボランティア活動の促進 etc
2	- 市政への理解や関心の向上【新規】 - 政策立案の段階などにおける市政への積極的な参加【新規】 etc	- 市政の積極的な情報発信【新規】 - 市政への参加促進【新規】 etc
3	- 地域コミュニティの意義や重要性の理解と関心向上【新規】 - 地域コミュニティ活動への積極的な参加や実践 etc	- 地縁による団体への加入促進への支援や人的・経費的負担の軽減等【新規】 - 地域コミュニティの活動促進 etc
4	- 多様な主体によるまちづくり活動への積極的な参加や実践 - まちづくり活動における他団体との連携 etc	- 地域特性を生かした活動の促進 - 官民連携の環境づくり etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 寄付を通じた間接的なまちづくり活動への参加は浸透してきているものの、防災訓練や健康づくり活動など、自発的に行う活動への参加には課題があり、元気な高齢者のまちづくり活動への参加促進や寄付文化の更なる醸成等を通じて、誰もが地域のまちづくり活動や地域福祉活動に参加し、地域の課題を解決していることが重要。
- 市政への参加しやすさに必要なこととして「参加の機会に関する情報がより分かりやすく、入手しやすくなること」が高くなっており、市政情報等のターゲット別（年代や分野など）の発信強化等（出し手本位の広報から、受け手本位の広報への変革）を通じて、市民や企業の市政への理解や関心が向上し、市政に積極的に参加していることが必要。
- 地域コミュニティ活動を担う団体として町内会が重要と認識されているものの加入率は緩やかに減少しており、地縁による団体の持続的なまちづくり活動を可能とする基盤強化が必要。また、民間事業者のビジネス活動を市政課題解決につなげる官民連携の促進等により、多様な主体が地域に密着したまちづくり活動を推進していることが重要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 住民の主体的な活動が重要であるし、行政による情報発信に期待（尚和委員）。
- 現ビジョンには地域課題を解決すると掲げているが、市民が地域課題を把握できるようにすることが重要と考えるので、市民自ら考えるという言葉を入れて欲しい（佐藤理委員）。
- 高齢者といっても元気でまだまだ活躍できる生産性を持った素晴らしい方もたくさんいるので、生涯現役でこれを活かせる場所も必要（牧野委員）。

①ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

④ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

⑤スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●地震・風水害などの自然災害の頻発や新型コロナウイルスの拡大を踏まえ、日頃の備え④や情報伝達手段⑤が充実し、災害時には、医療④や要配慮者への支援④などが適切に提供されていることが重要。

●また、交通⑤や食④に関し安全が保たれているとともに、デジタル化の進展により懸念される犯罪・トラブルの発生が防止されていること⑤が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×T	・市民愛着度の高い市民の多さ ・住みよさ ・都市機能の集積			・頻発する自然災害 ・感染症のパンデミック
W×O		・生産年齢の減少、少子高齢の人口構造	・デジタル技術の急激な進歩（AI、IoT） ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	

■基本目標 8 防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち

※災害対策や日常の安全などの観点に特化（健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項は生活・暮らし分野）

※胆振東部地震の発生、新型コロナウイルスの感染拡大等の経験から、地震に加えて、風水害、感染症を防災・減災していく観点を強化するとともに復旧復興の観点を追加。
対応する現目標13 地域防災力が強く災害に強いまち

■基本目標 9 日常の安全が保たれたまち

※消費生活や交通安全、防犯対策など、平常時の安全を守る観点を強化。
対応する現目標14 安全な日常生活が送れるまち

■第2回審議会でもいただいたご意見

○防災・減災体制をいくら整えても、被害を防ぐには限界がある。防災・減災だけでは被害を防ぎきれないからこそ、被害を軽減することと、被害を受けた後の回復を助けることの2本立て、両輪が必要（定池委員）

⇒基本目標に「迅速に復旧復興できるまち」と明記し、被害を受けた後の回復を支援する観点を位置付け

基本目標 8 防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち

■目指す姿 (案)

- 地震や風水害・雪害といった自然災害や感染症の拡大などが起きても、生活や経済への影響を最小化するとともに、感染症の拡大を早期に抑えることができています。

※「防災・減災対策（耐震化、大規模停電対策、浸水対策など）」や「災害対策体制の充実」、「感染症への対応」の観点を記載。

- 災害時や感染症拡大時においても、誰もが安心して医療や介護を受けられています。また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、**誰一人取り残されず**に被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて**市民**に寄り添った支援が行われています。

※「災害時や感染症拡大時の対策」、「災害時要配慮者への対応」、「復旧復興」の観点を記載。

- 防災への意識が向上し、誰もが冬季の災害も想定した備えを行っています。また、有事の際には一人一人が主体的に行動し、協力し合うなど、地域の防災力が高まっています。

※「自助（日頃からの備え等）」、「共助（地域防災等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1 etc	- 所有建築物等の耐震化、停電対策、浸水対策や事業継続対策の推進【レベル】 ※停電対策、浸水対策の実施や業務継続対策の観点	・災害時等を想定した各種計画の策定【新規】 ・企業等との連携など、迅速な災害対策を行う体制の充実 ・防災関係機関や他市町村との広域的な連携体制の充実 ・災害時におけるライフラインや交通ネットワークの確保 ・公共施設、上下水道、道路などの耐震化、停電対策、浸水対策の実施や業務継続力の強化【レベル】 ※停電対策や浸水対策、業務継続力の観点 ・民間施設のや停電対策、浸水対策、事業継続対策の促進【レベル】 ・感染症の拡大を可能な限り抑制する早期の対応【新規】 etc
2 etc	・避難場所や物資の提供など、災害発生時の協力 ・災害時や感染症拡大時の医療・介護の提供【新規】 ・災害時基幹病院を中心とした災害対応力の強化【新規】 ・高齢者や障がい者、外国人等の災害時要配慮者の避難支援体制の整備 ・ボランティア等による福祉救援活動の実施 ・迅速な復旧復興に向けた技術の高度化【新規】	・円滑な避難所運営や体制の整備 ・避難情報等の災害情報の積極的な提供 ・ICTや先端技術を活用した迅速な災害対応や効果的な情報伝達【新規】 ・災害時や感染症拡大時の医療・介護提供体制の整備や強化【新規】 ・災害時要配慮者に対する支援の充実 ・ボランティア等による福祉救援活動の促進 ・迅速な生活再建支援などの復旧復興に向けた取組の推進【新規】 etc
3 etc	・さまざまな災害への理解と防災意識の向上【新規】 ・各家庭や企業での備蓄など、災害への備え ・災害時の地域や企業等の助け合い意識向上【新規】 ・防災訓練への参加など自主防災活動の推進 ・災害時要配慮者の日常的な見守りや把握への協力 etc	・土砂災害や冬季災害を含めた防災への理解促進【新規】 ・あらゆる世代への防災教育や人材育成の充実 ・自主防災組織の活動推進等の共助の促進 ・日頃からの備え等の自助の促進 ・災害時要配慮者の把握 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 気候変動に伴う災害（洪水・土砂災害等）の激甚化・頻発化や新型コロナウイルスの蔓延を受け、耐震化や大規模停電対策、感染症対策などの防災・減災対策を通じて災害が起きても生活や経済への影響を最小化することが必要。
- 災害時には、医療・介護サービスを継続できる体制が整い、一人で避難することが難しい市民への細かな配慮がなされるとともに、迅速な復旧・復興に向け、被災者に寄り添った支援が行われていることが重要。
- 胆振東部地震の後、災害に対する備えを行っている家庭の割合は増加傾向にあるものの、災害に備えた活動を行っている自主防災組織の割合は横ばい傾向であり、冬季災害への対応も想定しながら、引き続き、公助に加え、自助・共助による災害対策に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 災害時においては、安否が把握できないことに非常に苦労したことから、把握ができる仕組みなどがあると良い（佐藤理委員）
- 積雪寒冷期の災害想定もしているということも何らかの形で示した方が、「さまざまな方面に目配りをしている」という理解も深めてもらえると考える（定池委員）
- 積雪寒冷地であることを踏まえ、冬の災害が起きたことを想定して記載すべき（岡本委員）

基本目標 9 日常の安全が保たれたまち

■目指す姿 **案**

1 犯罪や消費生活に関するトラブルの発生が未然に防止されています。

※「防犯対策」や「消費者被害の防止」の観点を記載。

2 強靱な消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られています。

※「消防・救急体制の整備」の観点を記載。

3 交通ルールや自転車マナーが順守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。

※「交通安全」や「自転車対策」の観点を記載。

※「公共交通を中心とした交通」や「ウォークアブルシティ」の観点は都市空間分野で整理

4 食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。

※「食の安全」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	・自立した消費者としての意識向上【新規】 ・法令を遵守した適正な取引行為の推進【新規】 etc	・犯罪や消費生活に関するトラブルを未然防止できる対策の充実 ※未然防止する観点【レベ】 ・子どもの安全など地域防犯の取組推進 etc
2	・自主防火の意識向上と活動推進【新規】 ・広域的な消防行政への理解・協力【新規】 ・持続可能な救急医療体制の構築に向けた医療機関や企業による行政等との連携【新規】 etc	・自主防火対策の推進や持続可能な消防団体制の構築【新規】 ・広域的な消防行政の推進【新規】 ・大規模災害への備えや対策【新規】 ・救急活動等へのICTや先端技術の活用【新規】 etc
3	・交通ルールなどの理解・順守・マナー向上 ・地域等での交通安全運動の推進 ・民間の土地・施設における公共駐輪場設置等への協力【新規】 etc	・交通ルールや自転車マナーの理解促進 ・交通安全の担い手確保【新規】 ・歩行者、自転車及び自動車の通行環境の安全性向上と総合的な駐輪対策の推進【新規】 ・事故危険箇所の解消や子供の移動経路の安全確保に向けた取組の推進 etc
4	・食の安全への意識向上 ・食品の自主的な衛生管理 etc	・生産から販売までの安全確保 ・自主的な衛生管理等の推進 ・食品等の安全性に関する学習機会や情報提供の充実 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 犯罪や消費生活へのぜい弱性を帯びた高齢者人口が増加していくことが予想される中、デジタル化による消費行動の変化や特殊詐欺被害等への対応など、トラブルの発生が未然に防止されていることが重要。
- 高齢者の増加により火災時に逃げ遅れる死傷者の増加が懸念されるとともに高齢者の増加に比例する救急需要が予想される中、強靱な消防・救急体制を構築し、市民の安全・安心が守られていることが重要。
- 迷惑駐車や放置自転車の問題が続いていることや自転車対歩行者事故が増加していることから、事故の少ない安全な交通環境が実現していることが重要。
- 食に関する大きな事件・事故が発生し食の安全・安心が揺らぐと、市民生活のみならず、食産業や観光にも大きな影響を与えることから、食の安全が守られ誰もが健やかで豊かな食生活を送っていることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 該当なし

①ユニバーサル

支える人と支えられる人という一方の関係性を超え、双方向に支え合うこと
(障壁や困難の解消、格差の是正、機会の均等、交流の促進、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート (快適・先端)

先端技術等を活用し、まちの魅力・快適性を高めていること
(利便性の向上、生産性の向上、人材育成、ゼロカーボンなど)

- 人口減少の緩和につながるもう一つの方策に、若者の道外流出の抑制と国内外から企業や人材の流入の促進があり、札幌の強みである分野や今後成長が期待される分野の産業が成長している③ことが重要。
- また、地域経済を支える中小企業や商店街などが生産年齢人口の減少を克服している③とともに、新しい技術やアイデアで社会課題の解決に挑戦するスタートアップが活発になっている③ことが重要。
- さらに、女性や高齢者を含め希望する誰もが安定して働ける仕事に就いている①とともに、価値観やライフスタイルに応じて多様で柔軟な働き方ができる環境が整っていること②が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・都市機能の集積 ・高い都市ブランドイメージ ・食の魅力 ・観光満足度の高さ ・ICT関連産業の振興の歴史・企業集積 ・国からスタートアップ・エコシステム推進拠点都市に認定		・デジタル技術の急激な進歩 ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き ・北海道新幹線の札幌開業 ・日本一の食糧自給率（北海道）	
W×O		・1人当たりの市民所得の低さ ・生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 ・若年層の道外流失	・デジタル技術の急激な進歩 ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	
W×T		・1人当たりの市民所得の低さ ・女性、高齢者の有業率の低さ ・男性、女性ともに長時間労働の傾向 ・子育てへの負担感を抱える市民の増加 ・生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 ・若年層の道外流失		・全国な少子・高齢化の進行 ・感染症のパンデミック

■基本目標10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

- ※現目標 4 強みを生かした産業が経済をけん引するまち と
- 現目標 7 強みを生かし世界とつながるまち を一本化

■基本目標11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち

⇒ 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支える、開かれたまち

- ※現目標 5 様々な連携により産業が高度化するまち と
- 現目標 8 地域コミュニティを支える産業を大切にするまち を一本化

■基本目標12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

- ※対応する現目標 6 市民の雇用が安定的に確保されるまち

基本目標10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

■目指す姿 (案)

- 1 札幌市・北海道の強みである食、観光分野の産業が、時代の潮流を的確にとらえ、国内外からの新たな消費を生み出し、札幌市はもとより北海道の経済成長をけん引しています。
- 2 健康福祉・医療、IT、クリエイティブ分野の産業が、国内外から投資や人・企業を呼び込み、札幌市の新たな強みとして更なる成長を遂げています。

※新たな強みである産業に成長している という観点を追加

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1	(食) ・国内外への販路拡大【レベ】 ・付加価値の向上 ・地産地消の実践 (観光) ・ターゲットやシーズンに合わせた観光コンテンツの創出【新規】 ・観光客誘致 ・観光客へのおもてなし etc	・食・観光分野の重点的な振興支援 (食) ・販路拡大支援 ・付加価値向上支援 (観光) ・観光コンテンツ創出支援【新規】 ・観光客誘致支援 ・MICE推進 ・受入環境整備 ・北海道観光の拠点都市として、広域連携を推進 etc
2	・新技術の活用による製品開発、付加価値の向上 ・地場の中小企業の発展への理解、協力 etc	・健康福祉・医療、IT、クリエイティブ分野の重点的な振興支援【レベ】 ・新技術の開発支援 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 新型コロナウイルスによる経済への影響を踏まえながら、これまで強みであった産業の振興とともに、新たな柱となる産業の育成・創出の促進が重要
- 北海道観光の拠点として付加価値を高め、国内外からの観光消費を拡大させることが重要
- 少子高齢化に伴う国内市場の縮小が予測されるため、海外進出等新たな需要の掘り起こしが重要

■第2回審議会でいただいたご意見

- アウトターの政策として、観光に思いきって振り切るという手もある。世界から人を呼び込んで消費してもらうことが重要。北海道、札幌に残された唯一の発展の道（原田）
- ビジネス等で生み出されたものがカルチャーになり、それが住んでいる人へのコミットメントにもなる。そしてカルチャーが新しいビジネスを生むような、循環があるとよい。
（佐藤（大））

基本目標11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支える、開かれたまち

■目指す姿 **案**

- 1 中小企業・小規模企業や商店街など、事業を営むもの全ての活動が活発で、地域のにぎわいや経済を支えています。

※小規模企業の振興という観点を追加

- 2 様々な分野でデータや先端技術が活用され、生産性が向上し、人口減少社会においても持続的な経済成長を遂げています。

※生産性の向上 という観点を追加

- 3 行政、大学、民間組織等の関係機関が一体となり、起業家を育成・支援する体制や環境が充実し、誰もがチャレンジできる文化が根付くことで、多くのスタートアップが生まれ続けています。

※チャレンジできる文化の定着、スタートアップの創出という観点を追加

- 4 様々な企業が数多く立地、創業し、スタートアップの集積や産学官連携や、国内はもとより海外の企業等との交流が活発に行われ、ビジネスチャンスや新たな価値が創出され続けています。

※海外との交流をより強化していく という観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	・地域の店舗の利用 ・地域の商店街活動への積極的な参加 ・新しい技術や製品開発への挑戦 etc	・経営基盤の強化に向けた支援 ・商店街活性化に向けた支援 etc
2	・データや先端技術の活用【新規】 ・組織の垣根を超えたデータ等の連携【新規】 etc	・データや先端技術の導入支援【新規】 ・生産性向上への支援【レベ】 ・オープンデータ化の推進による企業等との連携【新規】 etc
3	・スタートアップ・エコシステムへの積極的な参画や協力により、多くのスタートアップを創出【新規】 etc	・スタートアップ・エコシステムの構築、発展支援【新規】 etc
4	・国内及び海外の企業等との積極的な交流 ・新事業や新分野への事業展開 ・新たな技術や製品の開発に向けた産学官連携の促進 ・企業と大学、大学同士の積極的な交流 etc	・企業立地の促進 ・創業支援 ・新たな技術や製品の開発に向けた産学官連携の促進 ・海外展開支援 ・企業と大学、大学同士の交流支援 etc

※スタートアップ・エコシステム：スタートアップの創出や育成を、行政、大学、民間組織等関係機関で一体となり支える環境のこと。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

○有事に柔軟に対応し生産性の高い中小・小規模事業者の創出、創業の促進、地域の商業活動の活性化に資する支援などを行い、少子高齢化の進展に対応した持続可能な地域経済を構築する必要がある。

○産学連携のさらなる推進により、先端技術・研究を活用したイノベーションの創出や市内産業の競争力の強化を図り、理系人材の定着が促進される魅力的な企業を創出することが重要。

○スマートシティの実現、オープンデータなどによる産業の高度化や地域の課題解決が重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

○まちづくりの基本目標について、新しい生活スタイルやビジネスが創発しやすいまちづくりを目指す（ビジネス創造プラットフォームの実現）（山本（強））

○勇気と信念をもって起業したスタートアップ企業が発展するには、多くの仕事をこなし、雇用し、人を育て、継続することが重要である。札幌の経営者は、未来を創造する「出る杭を打つ」ことなく、それらの企業を積極的に支え育て、「出る杭を伸ばすまち」づくりが出来る、未来志向の経営者でありたい。未来の産業を興し牽引する人材を育てることに、今こそ産学官で力を合わせる必要がある（山本（一））

○若者の道外流出について、若者は、経済活性化において大きな人的資源であり、道外への若者の流出について、札幌、道内での産業基盤の弱さが起因していることは、多くの委員の皆様がその認識を共有しているところだと思う

○これまでもビジョンの中に若者の流出についての記載はあったが、例えば先端技術産業の製造部門の誘致を目指すことや、起業家精神の育成、札幌の強みを生かした産業を興していくなど具体的な対策が見えていなかったように考える。

○スタートアップ拠点として、行政からもしっかりとサポートが必要。若者の流出を防いだり、新しい産業を創造する、起業を目指して札幌に移住することにつながる。様々な教育機会を通じて起業家精神を育むことも大事。（中田）

○スタートアップは札幌市としては強みかもしれないが、外から見たときに強みと言えるのか。スタートアップのレベル感を引き上げた方がいいと考えている。SWOT分析を興味深く見せてもらったが、海外から見ても札幌の強みであると言えるようなものに取捨選択しても良いのではないかと。福岡など、具体的なライバルを意識したビジョンになると良い（木村）

基本目標12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

■目指す姿 (案)

- 1 安心して働ける魅力的な雇用が安定的に確保されるとともに、企業も必要とする人材を確保できています。

※企業の人材確保 という観点を追加

- 2 ~~女性、高齢者、障がい者~~など多様な人材が持てる能力を発揮し、誰もがやりがいや充実感を得ながら働くことができているとともに、高い専門性を生かすことができる職場で、若い世代を中心とした幅広い年代の人材が活躍しています。
また、こうした多様性が、イノベーションをもたらすきっかけとなっています。

- 3 働きやすい職場環境が整備されるとともに、多様で柔軟な働き方や、仕事と生活の調和のとれた生き方が実現しています。

※多様な働き方（テレワーク等） という観点を追加

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1、2、3	・職業能力の向上や自己啓発 ・ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践（長時間労働の解消等） ・働く環境の改善（テレワークの導入等）【新規】 ・多様な人材の雇用 etc	・職業能力の向上や自己啓発に向けた支援 ・ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践に向けた支援 ・働く環境の改善に向けた支援 ・性別、年齢、国籍、障がいの有無を問わず、多様な人材の就労支援 ・人材を必要とする業界への支援【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 誰もがチャレンジでき、働きやすい社会のあり方を検討することが必要
- 若者の道外への転出超過は続いているため、地元企業の魅力アップ等により、若者の地元定着を図る取組の強化が必要
- 就労側にとって安心して働ける雇用先の確保と、企業側にとって必要な人材確保の取組を一体的に進めることが必要
- 新しい働き方（テレワーク等）が社会に浸透していることが重要

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 今の若い人たちはITを自在に使いこなしている人が多いので、それを札幌でビジネスとして地元に離れず定着できる仕組みや企業も増えると良いと考える
- 札幌は新しいチャレンジができる都市だと確信している。多様な人へのチャンスの種をたくさん撒き続けていける札幌を望む。アフターコロナが変革の時と捉え、SDGsも含め、まずは知ることから意識を変えるという重要性を提案する（牧野）

①ユニバーサル

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと
(障壁や困難の解消、格差の是正、機会の均等、交流の促進、自然との共生など)

②ウェルネス(健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート(快適・先端)

先端技術等を活用し、まちの魅力・快適性を高めていること
(利便性の向上、生産性の向上、人材育成、ゼロカーボンなど)

●世界からヒト・モノ・投資・情報を引き付け、共生社会や環境都市の実現、都市のリニューアル等に生かすため、札幌の強みであるウインタースポーツの大規模な国際大会が誘致・開催されていること③が重要。

●誰もがスポーツ(ウインタースポーツを含む)を楽しめる(する・みる・ささえる)こと②や、文化芸術を通じた学びや交流の機会が充実していること①が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	- 豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 - 冬季オリパラ大会の国内候補地への内定 - 地域愛着度の高い市民の多さ - 都市機能の集積 - 高い都市ブランドイメージ - 観光満足度の高さ		- 価値観やライフスタイルの多様化 - 都市のリニューアル時期による投資意欲の高まり	
W×O		- 市民の健康寿命は全国平均以下 - 町内会加入率の低下(地域意識や人間関係の希薄化)	- 価値観やライフスタイルの多様化 - 人生100年時代の到来、ライフシフト	

■基本目標13 世界屈指のウインタースポーツシティ

※冬季オリパラ招致・開催のポテンシャルがある世界屈指のウインタースポーツシティを目指す目標を新設。

■基本目標14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち

※子どもから高齢者、障がいのある人、観光客も含めて、誰もがスポーツを楽しめる(みる、する、ささえる)観点を強化。

※審議会意見を踏まえ、四季を通じてスポーツを楽しめるという視点を追加。

■基本目標15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち

※文化芸術を誰もが楽しめることに加え、心の豊かさや創造性を育む観点を強化。

基本目標13 世界屈指のウインタースポーツシティ

■目指す姿 **案**

- 1 身近なところでウインタースポーツを楽しむことのできる環境が充実しています。また、札幌で育ったウインタースポーツのアスリートが国内外で活躍しています。

※総合型ハイパフォーマンススポーツセンター誘致、アスリートを育成する環境の充実 という観点を追加

- 2 豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも稀有な環境を生かして、大規模なウインタースポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されています。

※大規模スポーツ大会の誘致、大会で得た知見の市民還元、大規模スポーツ大会を契機としたシティプロモート という観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	・積極的なウインタースポーツへの参加（市） ・アスリート雇用・支援（企）【新規】 etc.	・ウインタースポーツに参加しやすい環境づくり etc.
2	・大会開催への支援・協力（市・企）【新規】 ・来札者へのおもてなし（市・企）【新規】 etc.	・大会誘致・開催【レベ】 ・大会で得た知見を市民に還元する仕組みづくり【新規】 ・大会を契機としたシティプロモート etc.

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 市民の文化やライフスタイルとして根付かせるため、ウインタースポーツ実施率の上昇を目指すことが必要（H29:20.1%）。
- オリンピック・パラリンピック大会の開催が可能な都市として、ウインタースポーツシティとしての魅力を高めていくことが重要。
- 2030冬季オリパラに向けた大規模スポーツ大会の競技運営等のノウハウ蓄積、大会機運の醸成が必要。
- アスリート育成する環境づくりとしての、本市スポーツ施設の戦略的活用や、ICTを活用したオンライン指導、HPSC誘致が重要。
- 大規模スポーツ大会を通じて得た知見を市民に還元する仕組みづくりが重要。
- 大規模スポーツ大会等を契機として、人の呼び込みやシティプロモートを推進していく必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 前回のオリンピックのときは、パラリンピックが無かったが、2030年冬季オリパラ招致となると、札幌では初のパラリンピック開催となる。そうなれば、冬季のバリアフリーを進めていく必要。（高野）

基本目標14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち

■目指す姿 **案**

- 1 誰もがスポーツを楽しみながら、心身ともに健康で充実した生活を送っています。また、スポーツで得られた知見が市民の健康づくりなどに生かされています。

※健康寿命の延伸につながる生涯スポーツの推進 という観点を追加

- 2 スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しています。

※スノーリゾートのブランド化 という観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	・積極的な参加（する・みる・ささえる）や交流（市） ・積極的な参加の促進（企） ・民間スポーツ施設整備やアスリートの雇用（企）【新規】 etc.	・誰もが気軽に参加しやすい環境づくり ・医科学的知見を市民に還元する仕組みづくり【新規】 ・スポーツ分野におけるICT活用の促進【新規】 etc.
2	・スポーツイベントに伴う交流、おもてなしの推進（市・企）【レベ】 etc.	・スポーツによるまちづくり ・スノーリゾートのブランド化【新規】 ・スポーツツーリズムの推進【新規】 etc.

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 高齢化社会の進行に伴い、スポーツを通じた健康維持・健康寿命の延伸を目指すことが重要。
- トップアスリートのサポートやスポーツ分野におけるICTの活用促進などを通じて得た医科学的知見を市民に還元する仕組みづくりが重要。
- スポーツを通じて、ハード・ソフトの両面から共生社会の実現を目指すことが重要。
- スポーツ実施率の向上（H29：56.4%）のため、多様化するライフスタイルに応じて、「する・みる・ささえる」のさまざまな角度から誰もが日常の中で気軽にスポーツを楽しめる環境整備や機会創出をしていく必要。
- スポーツをきっかけとして、他分野と連携した新たな価値創造。（スポーツ×○○）

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 健康寿命は重要なキーワード。日常の生活、運動などによる健康寿命の延伸について記載して欲しい。幼少期の発育が将来的な健康につながる。（川島）
- 公園の近くに住んでいる人は、そうでない人と比較して運動量が1.2倍と、活動できる場があることが重要。各区ウォーキングマップのような資源を広く周知し、特に高齢者に対して、外に出歩くきっかけをつくる必要がある。（椎野）
- 障害のある方へのスポーツ振興も重要。（川島）
- 札幌の気候はウィンタースポーツに限らず、夏季のスポーツイベントを開催するにも適地であると考えため、スポーツによる観光客誘致に取り組むべき。（川島、中田）

基本目標15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち

■目指す姿 **案**

- 誰もが文化芸術に親しむことができる環境が整い、多様な価値観が受け入れられています。
※社会包摂機能、多様性への理解 という観点を追加
- 札幌ならではの文化が育まれ、世界に発信されるとともに、様々な分野との連携により新たな価値が創出され、まちの魅力が向上しています。
- 文化・文化財を適切に保存し様々な形で生かすとともに、札幌への愛着を深めることで、札幌の自然・歴史・文化が未来へ継承されています。



■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	- 鑑賞や創作活動への積極的な参加（市） - 文化芸術活動への支援・協力（企） - etc.	- 年齢・障がいの有無などに関わらず、誰もが観賞・創作に参加しやすい環境づくり - アーティストや活動を支える人材の支援 【新規】 - etc.
2	- 文化芸術を活用した交流（市） - 文化芸術の積極的な活用（市・企） - etc.	- 国際的な文化芸術イベントの開催 - 文化芸術による交流が生まれる環境づくり - 様々な分野との連携の機会づくり - 伝統的なものはもとより、現代の新しいものも含めた、札幌ならではの文化芸術の魅力発信 - etc.
3	- 文化・文化財の保存や様々な形で生かすための取組への理解・支援および協力（市・企）【新規】 - 事業への積極的な参加、担い手としての参画（市・企）【新規】 - etc.	- 文化・文化財の保存や様々な形で生かすための取組 - 文化・文化財に関する普及・啓発 - 担い手支援【新規】 - etc.

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 社会包摂機能をいかし、多様な人・価値観との関わりによる相互理解を深める機会の創出を目指すことが重要。
- 行動様式が変容する中、より多様な鑑賞スタイルや創作・発表機会があることが重要。
- 誰もが日常の中で気軽に文化芸術に触れる・参加することのできる環境づくりが必要。
- 文化芸術の担い手の支援が必要。
- 文化芸術をきっかけとして、他分野と連携した新たな価値創造や、関係人口を増やすなどまちの活性化を目指すことが重要。
- 文化・歴史・自然の観点から郷土への関心、特に自然史から生物多様性の取り組みへの関心を高めることが必要。
- 文化遺産（歴史的建造物等）の保存・継承の担い手の確保が必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 多様な人が当たり前のように自然に交じり合っている環境が重要（牧野委員）
- 札幌のイメージは初音ミクだと思っている人たちも少なくない。まちのイメージをつくっていく、カルチャーになっていくということがある。（佐藤（大）委員）

⑩ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

㊦ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

⑤スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動きが加速しているため、「LEED for Cities」での「プラチナ」認証という高い評価を受けた環境面の強みを生かし、脱炭素社会の実現に向け先駆的に取り組んでいること⑤が重要。

●また、うるおいや安らぎを与える森林、公園などを保全・創出していること㊦や、防災・市民交流の場として活用していくこと⑩が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	- 豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 - 環境面での高い評価		- デジタル技術の急激な進歩（AI、IoT） - 国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き - 気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動き（脱炭素） - 世界的なESG投資意欲の高まり	
S×O	- 豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 - 環境面での高い評価 - 都市機能の集積		- 価値観やライフスタイルの多様化（ダイバーシティ） - 気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動き（脱炭素）	

■基本目標16 世界に冠たる環境都市 ⇒ 世界に冠たるサステナブルシティ

※脱炭素社会の実現や地域循環共生圏の形成など、循環型社会を構築していく観点を強化 現目標16、17を一本化

■基本目標17 豊かなみどり・生態系と共生するまち ⇒ 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

※うるおいや安らぎを与える森林、公園等の保全・創出や、みどりが有する防災、市民交流の場等の価値や機能を有効活用する観点を強化 現目標15、23を一本化

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 基本目標16は、『世界に冠たる環境都市』ではなく、『世界に冠たるサステナブルシティ』とした方が良い。サステナブルの方が、環境だけでなく経済・社会の要素も入る。Environmental CityよりもSustainable cityの方が世界に対してもアピールできる（山中）
- 基本目標17について、より市民目線に立って、「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」を提案。市民が身近なみどりに親しむことで札幌の自然の豊かさを享受するとともに、自然環境との共生についての知識・理解を深める機会を創出することが求められる（椎野）

【環境】基本目標16 世界に冠たるサステナブルシティ

■目指す姿 **案**

- 1 脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネ化に加え、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や、新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。
※「省エネ」や「クリーンエネルギー」の観点を記載。
- 2 エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靱性を兼ね備えた都心が確立されています。
※「都心エネルギーネットワーク」の観点を記載。
- 3 ごみの減量・再使用・リサイクルなどが積極的に行われるとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。 ※「循環型社会」の観点を記載。
- 4 誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。 ※「SDGsを意識した行動」の観点を記載。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

○2030年の温室効果ガス排出量削減目標達成及び2050年の脱炭素社会の実現に向けて、徹底した省エネルギーの推進や、新たなクリーンエネルギーである水素も含めた再生可能エネルギーの導入拡大、次世代自動車の普及拡大などの取組を加速させる必要

○都市機能が集積した都心は多くのエネルギーを消費していることから、都心が先導的に建物の省エネルギー化や、エネルギーの面的利用、再生可能エネルギー利用を推進する必要があるため、世界的なESG投資意欲の高まりや、今後ピークを迎える民間建物の建替えを契機として、エネルギーネットワークの拡充などによるエネルギー利用の最適化等を進めていくことが重要

○新ごみルール等によりごみの量は大きく減少し、清掃工場1か所の廃止と埋立地が延命化された。今後も引き続き、循環型社会の形成に向けた取組を推進していくとともに、各地域の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成し、地域特性に応じ資源を補完し支え合うという「地域循環共生圏」の視点も取り入れる必要

○持続可能な社会の実現に向けては、多様化・高度化する様々な課題に対して、SDGsの視点を踏まえ、環境・経済・社会のつながりを理解した行動や企業活動などを行う必要

■第2回審議会でもいただいたご意見

○持続可能なまちは、札幌だけで実現できるものではない。賢い消費者・Wise Userが住むまち。木材も道産木材を選ぶなど、「賢い消費者」の考えが重要（山中）

○カーボンニュートラルへの取り組みは、新たなビジネスの創造のきっかけにもつながると考える。脱炭素社会への取組については、ビジョンの中では環境に記載されているが、国内外の状況に鑑みもう少しはっきりとした表現で強調してはどうか。（中田）

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	・ZEH・ZEBの選択・供給【新規】 ・省エネ・再エネ・畜エネ機器の導入及び再エネ電力の選択 ※再エネ【レベ】 ・公共交通の積極的な利用とゼロエミッション自動車の導入 ※ゼロエミッション自動車【レベ】 etc	・ZEH・ZEBや省エネ機器などの普及促進 ※ZEH・ZEB【レベ】 ・再生可能エネルギー導入の推進 ・ゼロエミッション自動車の普及促進や水素ステーション等の整備【新規】 etc
2	・エネルギーネットワークの整備【新規】 ・建物の更新等を契機とした自立分散電源の設置や地域熱供給への接続【新規】 ・ICTを活用したエネルギーマネジメントシステム導入【新規】 - etc	・エネルギーネットワーク整備の促進【新規】 ・建物の更新等の機会を捉えた自立分散電源の設置や地域熱供給への接続の取組誘導【新規】 ・ICTを活用したエネルギーマネジメントシステム導入の支援【新規】 etc
3	・2R（リデュース、リユース）を中心とした3R行動の実践 ・道産木材などの地域資源の積極的な選択・利用【新規】 etc	・2R（リデュース、リユース）を中心とした3R行動の促進 ・広域圏での廃棄物処理やエネルギー連携【新規】 etc
4	・環境に関する世界情勢やSDGsに関心をもち、理解を深める【新規】 ・環境に配慮した賢い消費・選択や、積極的なエコ活動の実施【新規】 ・ゼロカーボンを契機とした新たなビジネス創出【新規】 etc	・あらゆる世代における、SDGsを意識した学びの推進 ※SDGs【レベ】 ・環境へ配慮したライフスタイルへの転換に向けた普及啓発 ・環境に関する新技術の開発支援【新規】 etc

【環境】基本目標17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

■目指す姿 **案**

- 1 森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちのなかで、~~人々~~**誰もが**健康的で幸福感の高い生活を送っています。
※「みどりの創出・保全」の観点を記載。
- 2 森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素吸収など多面的な機能を発揮し、都市の魅力や強靱性**レジリエンス（自己回復力・強靱性）**を高めています。
※「グリーンインフラ」「みどりの利活用」の観点を記載。
- 3 生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持されたなかで自然と人とが共生しています。
※「生物多様性の保全」の観点を記載。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 都市公園の数は充実しているものの、都心の緑被率は低く、人口増加が顕著な中央区などでは身近な公園が不足している地域もあることから、都心におけるみどりづくりと公園の必要性が高い地域での公園づくりが必要。
また、市内の森林では、間伐が遅れた人工林が多数あることから、「森林環境譲与税」などを活用しながら、森林を守り・育てていく必要
- 札幌の強みである「豊かな自然環境」を最大限生かしながら、気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動きに対応するため、自然・みどりが持つ機能（防災・減災、地域振興など）を積極的に活用するグリーンインフラの導入を進める必要。また、都市公園法の改正により、Park-PFIが新たに設けられたことから、これらの制度も有効に活用しながら、官民連携による魅力あるみどりの創出・活用を進める必要
- 生物多様性の理解度は横ばいで推移していることから、生物多様性の保全に関する理解の更なる促進や、地域の自然の特徴に合わせた適切な自然環境の保全を進めることで、自然との共生を目指すことが必要

■第2回審議会でもいただいたご意見

- みどりには、存在機能と利用機能という二つがある。存在機能は、防災機能やヒートアイランド現象の緩和機能などである。一方、利用機能は、子どもの身近な遊び場という機能もあれば、市民が週末にレクリエーションを楽しめる場というような、利用することによって健康増進を図るという機能
- 未来を担う子どもたちに早いうちから自然に親しんでもらう。自然に親しむような活動の機会創出を見直していくべき
- みどりは健康寿命延伸に寄与する。規模の大きい都市公園がある地域に住む人は、そうでない地域に比べて、運動習慣が1.2倍高い。自分が外で活動できる場があるというのは非常に重要。身近な公園などをもう少し活動したくなるような空間に整えることや、各区のウォーキングマップなど既にある資源を広く周知し、外出機会を創出することも必要
- みどりの自然を保全していくことは防災・減災につながる。防災・減災の観点から、みどりを見直すことも大切（椎野）

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1, 2	・保全・創出・整備に関するまちづくり活動への主体的な参加 ・みどりのオープンスペース創出 ・遊びや健康増進の場として身近なみどりに触れ合う【新規】 ・地域コミュニティを育む場としての活用 ・民間主導・官民連携による利活用【新規】 ・森林に入り、触れ、感じることで、森林の持つ機能の大切さを知る【新規】 etc	・公有地のみどりの保全・創出及び私有林の整備 ・みどりに関する情報発信【新規】 ・イベント開催などによる各主体の連携促進 ・みどりの多様な機能（防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供など）を活用するグリーンインフラの取組の推進【新規】 ・Park-PFIなどによる公園の魅力向上【新規】 ・森林環境譲与税の活用による森林整備、担い手の育成・確保【新規】 etc
3	・生物多様性に関する理解 ・多様な生物が生息・生育できる自然環境の保全・創出につながる取組への参画【新規】 etc	・生物多様性に関する保全活動の促進【新規】 ・生物多様性に関する教育や普及啓発の推進 ・自然と触れ合う機会や学習する機会の積極的な提供【新規】 etc

⑩ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

㉔ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

⑤スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●人口減少・少子高齢化の社会においても、持続可能な都市経営を行うには、主要な交通結節点周辺などに都市機能の集積が進んでいる⑤とともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークが確立されていること⑩が重要。

●また、都市のリニューアル時期の到来や2030年度の北海道新幹線の札幌延伸を契機として、国内外から投資を呼び込むことで、都心等で高次な都市機能の集積が進んでいる⑤とともに、広域的な交通ネットワークが充実していること⑤が重要。

●さらに、インフラや市有建築物については、必要な規模や機能を踏まえた計画的な更新や複合化が進んでいる⑤とともに、道路空間を滞留空間として活用するなどのアセットの利活用が進んでいる㉔ことが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×T	・住みよさ ・都市機能の集積 ・高い都市ブランドイメージ ・市民1人あたりの市債残高の低さ			・全国的な少子高齢化の進行
S×O	・豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 ・冬季オリパラ大会の国内候補地への内定 ・冷涼な夏の気候 ・都市機能の集積		・北海道新幹線の札幌開業 ・都市のリニューアル時期による投資意欲の高まり ・世界的なESG投資意欲の高まり	
W×O		・財政力指数の低さ ・公共、民間も含めた施設の老朽化		

■基本目標18 コンパクトで人にやさしい快適なまち

※主要な交通結節点周辺等に都市機能の集積を図るとともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークの確立を図るなど、コンパクトシティを推進する観点を強化 対応する現目標21

■基本目標19 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

※都心等において、国内外から民間投資を促進し、高次な都市機能の集積や移動環境の充実を図るとともに、広域交通ネットワークを充実する観点を強化 対応する現目標22

■基本目標20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

※施設の複合化や官民連携による施設の整備、運営・維持管理を進める観点の強化、また、都市基盤を利活用する観点を追加 対応する現目標24

基本目標18 コンパクトで人にやさしい快適なまち

■目指す姿 (案)

- 都市空間の種別に応じた土地利用と四季の変化が感じられる良好な景観の形成により、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。
※「土地利用」や「景観」の観点を記載
- 「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。
※「地域交流拠点」の観点を記載
- 「複合型高度利用市街地」では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、「一般住宅地」では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、「郊外住宅地」では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。
※「住宅市街地（複合型高度利用、一般、郊外）」の観点を記載
- 四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。
※「交通ネットワーク全体の観点を記載。
※「生活交通」、「冬期の道路環境（除排雪）」の維持・確保の観点は「生活・暮らし」分野に記載。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 持続可能な都市経営や魅力ある都市づくりを進めていくため、少子高齢化の進行や激甚化する自然災害等のリスク、デジタル技術の急速な進歩などを踏まえながら、適切な土地利用を図るとともに、様々な主体が互いに手を携えながら、良好な景観の形成に向けて取り組んでいく必要
- 引き続き、地域交流拠点に日常生活を支える機能やにぎわいを生む機能を集積し、コンパクトなまちづくりを進めていくため、各拠点の特徴や地域特性に応じた都市機能の集積を官民連携で進めていく必要。また、官民連携で、快適なオープンスペースや歩きたくなる空間を創出するとともに、それらを柔軟に利活用していく必要
- 複合型高度利用市街地、一般住宅地、郊外住宅地においては、それぞれの地域特性に応じた都市機能の適正な配置を図るなどして、生活利便性・交通利便性を確保するとともに、多様なニーズに応じた住環境を確保する必要
- 公共交通利用者数はコロナの影響により、減少に転じていることから、更なる効率化や新たな生活様式に伴うデジタル活用などを図っていくほか、交通施設や車両の更なるバリアフリー化や交通情報の充実による公共交通の質的充実を図るとともに、乗継機能の強化や、MaaS等ICTを活用した取組の推進など、ハード・ソフト両面からシームレスな移動環境の実現を図ることにより、持続可能な交通体系を確保していく必要

■第2回審議会でいただいたご意見

- 都市の美しさ、景観に関する記載がない。合理的に利便性のある整然とした街並みだけではなく、美しい街並みに関する記載もあつて良い。基本目標18の「人にやさしい」に包含されているのかもしれないが、歩いて暮らせるまちの実現というものが無い。「持続可能な交通ネットワークの実現」だけだと、車両中心のように思われる。（岡本）
- コンパクトに都市機能を集約し空中歩廊など歩きやすい空間があれば、季節や天候に関わらず身体活動ができ、車に頼らない社会づくりは健康にとっても非常に良い。（大西）

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1～3	・まちづくりに関わる計画策定等への積極的な参加 ・景観への関心の向上【新規】 ・地域特性に合わせた投資・開発【新規】 ・市街地の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施 ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 ・魅力的な交流・滞留空間等の積極的な利活用【新規】 ・人流データ等の利活用による空間整備、サービス創出【新規】 etc	・まちづくりに関わる計画等の策定・推進 ・土地利用計画制度等の適切な運用 ・地域特性に合わせた機能の誘導や施設の配置 ・市街地の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施及び誘導・支援 ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 ・データ連携基盤の整備によるデータ利活用の促進、データによる検証、人流データ等の利活用による効果的なまちづくり【新規】 etc
4	・公共交通の利便性向上 ・環境にやさしい公共交通や徒歩、自転車等の交通手段の適切な選択 ・データ利活用・先端技術の活用【新規】 ・利便性向上につながる交通情報の積極的な発信【新規】 etc	・地域特性に応じた持続可能な公共交通ネットワークの形成 ・安全で快適に利用できる道路ネットワークの維持・充実 ・データ利活用・先端技術の活用【新規】 ・利便性向上につながる交通情報の積極的な発信【新規】 etc

基本目標19 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

■目指す姿 **案**

- 「都心」では、民間投資と共鳴した新しい時代にふさわしい高次な都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。
※「都心」の観点を記載
- 「高次機能交流拠点」では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報を呼び込んでいます。
※「高次機能交流拠点」の観点を記載
- 「工業地・流通業務地」では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。
※「工業地・流通業務地」の観点を記載
- 広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地をはじめ、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。
※「広域交通ネットワーク」の観点を記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1, 2	- まちづくりに関わる計画策定等への積極的な参加 - 地域特性に合わせた投資・開発【新規】 - 都心等の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、地上・地下の歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施 ※交流・滞留空間、地上・地下の歩きたくなる空間形成【レベ】 - 魅力的な交流・滞留空間の積極的な利活用【新規】 - 人流データ等の利活用による空間整備、サービス創出【新規】	- まちづくりに関わる計画等の策定・推進 - 土地利用計画制度等の適切な運用 札幌の強み・魅力を更に高める都市機能の高度化や集積に向けた積極的な誘導【新規】 - 都心等の質の向上、良好な景観創出、快適な滞留空間形成、地上・地下の歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施及び誘導・支援 ※交流・滞留空間、地上・地下の歩きたくなる空間形成【レベ】 - データ連携基盤の整備によるデータ利活用の促進、データによる検証、人流データ等の利活用による効果的なまちづくり【新規】
3	周辺環境と調和しながら、市内で工場等 を新・増設、移転【新規】	- 土地利用計画制度等の適切な運用【新規】 - 移転建替え・増設に必要な工業用地を求める事業者とのマッチング支援【新規】
4	- 市民、観光客等の広域交通の積極的な利用【新規】 - 広域交通の利便性向上【新規】	- 広域交通ネットワークの整備や利便性向上 ※利便性向上【レベ】 - 広域交通の利用促進【新規】

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 都心は都市機能の立地や様々なアクティビティが展開される拠点として、また北海道・札幌の顔として、都市政策上重要な役割を担う場所であることから、都市間競争に勝ち抜くためにも、都市のリニューアル時期を捉え、交流拠点及び骨格軸等を中心に、民間投資を呼び込みながら、官民一体となったまちづくりを進めていく必要
- 北海道新幹線札幌延伸、丘珠空港の機能強化、冬季オリンピック・パラリンピック招致などを見据え、国際的・広域的な観点をもった産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化や集積を図る必要
- 市内の工場・倉庫等の老朽化が進んでおり、施設の更新や施設の規模拡大、機能増進を目的とした新・増設、移転に伴い新たな土地を求める企業が存在する一方、多くの企業は市内に土地を確保できず、一部の企業は市外移転しているケースも発生していることから、製造業や流通業などの立地に適した土地を確保していく必要
- 道内の主要都市や観光地のほか、国内外の地域をつなぐネットワークとして、北海道新幹線札幌延伸、都心アクセス道路整備、丘珠空港の機能強化など、北海道の中核都市として道内各地域からの交通アクセスの利便性向上を図るとともに、国内・国外につながる多様な交通手段の提供、定時性を確保していく必要

■第1、2回審議会でもいただいたご意見

- 都心では地下、琴似などでは空中歩廊が充実。雪や寒さに対応する空間的な工夫、歩いて暮らせるまちの切り口は少しずつ成長していると思うので、そこが伝わるような表現にしていける必要（岡本）
- 今後、新幹線札幌延伸の実現、あるいは、空港、高速道路網と併せて、札幌と道内の各市町村、道外も含めて、人流、物流が格段に飛躍されることが期待できる（中田）
- ハコモノは資源・レガシーとして経済を推進する起爆剤として重要であり、新幹線延伸にあわせて積極的に稼げる施設にすべき（原田）

基本目標20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

■目指す姿 **案**

1 道路、交通施設、上下水道、公園、廃棄物処理施設等のインフラや、区役所、学校、住宅等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性等も踏まえ、計画的な維持・**保全**・更新・再配置・複合化が行われ、**誰もが快適に利活用**しています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化等が行われています。

※「インフラや建築物の計画的な維持・更新等」の観点を記載

2 公共施設では、整備や運営・維持管理等に関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。

※「官民連携による整備や運営・維持管理」の観点を記載

3 道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。

※「都市基盤等の利活用」の観点を記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1、2	・民間のインフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新等【新規】 ・既存ストックの性能維持・向上【新規】 ・インフラや建築物の維持・保全等における生産性向上、業務効率化につながるICTや先端技術の活用【新規】 ・ICTや先端技術の活用に向けた人材の育成【新規】 ・公共施設の整備・運営等に係る積極的な参画【新設】 etc	・公共のインフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新等 ・住宅の維持・保全・更新に関する情報提供等の支援【新規】 ・公共施設の集約化・複合化の推進や、民間施設との連携などによる効果的かつ効率的な配置の推進 ・ICTや先端技術の活用、促進・支援【新規】 ・都市基盤の現状や将来の課題に関する情報の提供 ・地域インフラの整備等を支える企業や団体に対する支援・制度面での環境整備【新規】 ・PPP/PFI手法の導入等、民間活力の積極的な活用【新規】 etc
3	・既存ストックの利活用に対する理解・推進【新規】 ・利活用を見据えた公開空地等民有の公共空間の整備・開放【新規】 etc	・官民の都市基盤や未利用地等の空間の利活用の促進【新規】 ・市民のニーズに対応した公共空間の柔軟な利活用【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

○道路、交通施設、上下水道などのインフラや、区役所、学校、住宅などの建築物は、各種計画に基づき、ライフサイクルコストの縮減につながる効率的な維持・保全を進めているものの、昭和40年～50年代に集中的に整備してきた結果、今後10年以内に更新需要のピークを迎えることから、引き続き、事業費の抑制と平準化に向けた継続的な取組が必要。また、建設産業の担い手不足や高齢化等を踏まえ、ICTや先端技術を活用し、効率的な維持・保全などを進めていく必要

○二条小学校はまちづくりセンターと地区会館、児童会館と併せて整備し、白石区複合庁舎は区役所機能のほか、保健センター、区民センターなどの公的な機能集積のみならず、民間施設との複合化を行うなど、効果的かつ効率的な再配置を推進してきた。今後も、施設の更新等にあたっては、多様で柔軟なサービスを提供できる施設数・規模を検討し、施設の最適配置を図るほか、PPP/PFI手法の導入など、民間活力の積極的な活用を進める必要

○道路空間を滞留空間として活用するなど、都市、地域の資源として存在する官民の都市基盤（都市アセット）を最大限に利活用し、市民のニーズに対応していく必要

■第1、2回審議会でいただいたご意見

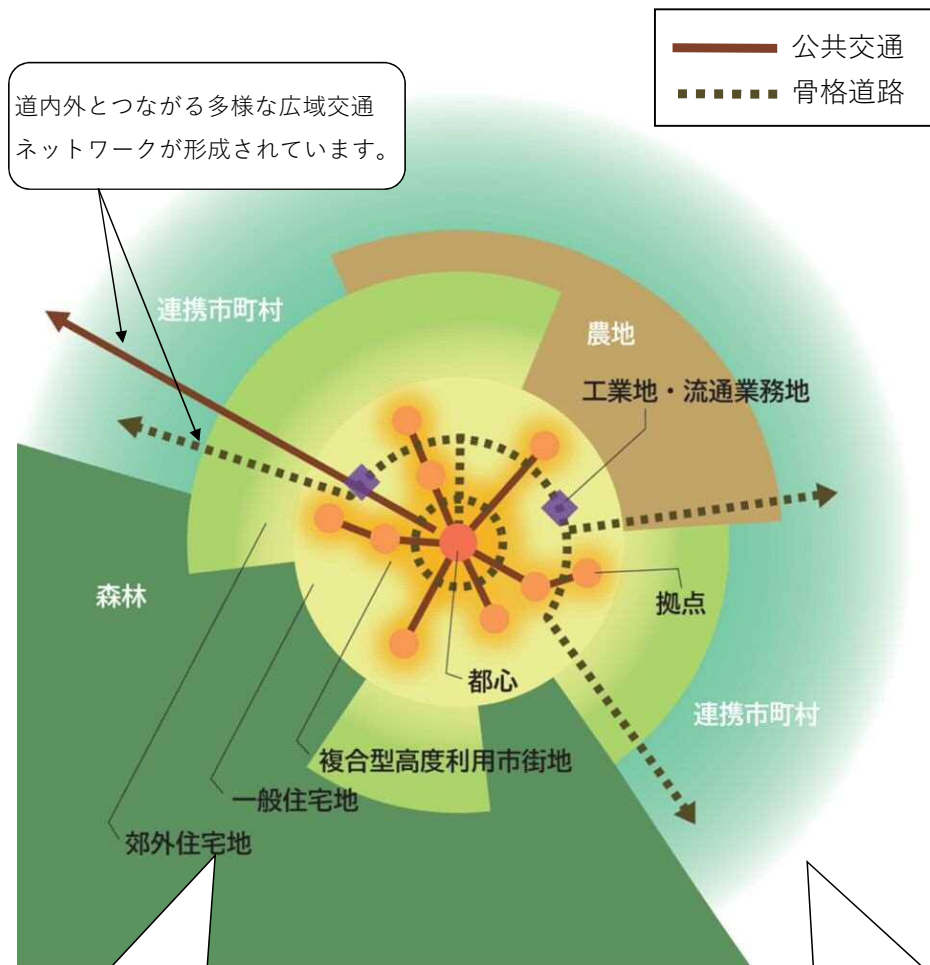
○税収減やインフラの老朽化が進む中、100年後に向け、今後10年の都市経営や都市構造をどのようにしていくか検討することが重要（村木）

○施設の老朽化により、複合化が進むと思うが、それを反映していくことが必要（福士）

○人口減少社会において、市有施設の機能集約は重要（川島）

○空き地や未利用地などを都市の一つの資源として見直し、例えば、そこで地域の方が菜園をやることで、地域のつながりの再構築にもつながっていく可能性がある（椎野）

【都市空間イメージ図】**案**



森林や農地など豊かなみどりに囲まれ、公共交通を基軸としたコンパクトな都市が形成されています。

都心や各拠点には、特性に応じて多様な都市機能が集積するとともに、住宅市街地には、複合型高度利用市街地、郊外住宅地、一般住宅地があり、多様なライフスタイルが実現できる住宅市街地が形成されています。

【都市空間の種別の定義】**案**

拠点	都心	JR札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西端付近を頂点として結び、北海道・札幌の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア
	地域交流拠点	主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏の拠点となるエリア
住宅市街地	高次機能交流拠点	産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、北海道・札幌の魅力と活力の向上に資する高次の都市機能が集積するエリア
	複合型高度利用市街地	おおむね環状通の内側及び地下鉄の沿線、地域交流拠点周辺で、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積するエリア
	郊外住宅地	市街化区域のうち、おおむね外側に位置し、一定の生活利便機能を有する低層住宅地を主とするエリア
	一般住宅地	複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外で、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地するエリア
工業地・流通業務地		工場などが集積している地区、工業系の土地利用を推進する地区及び流通業務機能が集積しているエリア
市街化区域の外		市街化調整区域と都市計画区域外